令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅰ　農業の担い手を目指す学生の確保	【視点１】 近年、福島県農業の復興にあわせ、ＧＡＰやスマート農業、有機栽培など農業を取り巻く環境が変化し、資金面でも修学支援制度や就農準備資金等が要因となり、募集定員に近い学生を確保してきた。 しかし、若年層の大幅な減少や県立高校改革による農業高校の統合が進められ、入校希望者数の減少が懸念される現状、より一層学生の確保に向けた積極的な取組が喫緊の課題となっている。 【視点２】 農業の担い手を目指す学生を確保するためには、農業高校はもちろん、その他の校種との連携・接続を強し、就農を考えている既卒者等の入校にも十分配慮しながら、地域に開かれた大学校づくりを推進し、あらゆる機会を通して本校の魅力を積極的に情報発信し、県内で唯一の農業が学べる専修学校であることを認知してもらうための取組が重要となっている。次年度は、新しい施設や寮が整備され、ハード面でもより充実したものとなるので積極的なアピールが必要である。 〔入校生の推移〕※定員60名 令和６年度 42名（70%） 水8、野15、果7、花5、畜7 令和５年度 59名（98%） 水10、野16、果13、花8、畜12 令和４年度 45名（75%） 水13、野15、果6、花2、畜9 令和３年度 52名（87%） 水15、野13、果7、花6、畜11 令和２年度 61名（102%） 水16、野15、果12、花11、畜 7 令和元年度 53名（88%） 水14、野14、果11、花 6、畜13 平成30年度 56名（93%） 水11、野14、果 9、花 8、畜 9 平成29年度 48名（80%） 水 9、野16、果 6、花 5、畜12	(1)　高校との連携による学生の確保	教務管理	① 高校訪問の実施 県内の県立、私立高校全校への高校訪問を計画的に実施する。また、高校から依頼があったガイダンス及び進路説明会等の行事に積極的に参加する。次年度完成予定の新施設、寮等について学校ＨＰや学校案内等で積極的にＰＲし学生募集につなげる。 〔訪問件数〕 80校（のべ100校）以上 〔過去実績〕 〇令和５年度120校（のべ181校） 〇令和４年度 96校（のべ196校） 〇令和３年度 76校（のべ178校）	・今年度は県内を中心に80校の訪問を実施した。数値目標より少ないが、のべ数では130校となる。県外においては、過去に実績のある高校への訪問を行った。3月までには訪問数80校を超える見込みである。 訪問者は、校長、副校長、研修部長、学科長、教務管理で行った。 ・進路説明会は、30校（のべ39件）に対応した。	B	高校訪問や進路説明会を行う中、各校とも定員割れ（一部進学校除く）が顕著に見られ、生徒数の減少を肌で感じることができた。訪問や説明会の生徒の様子を見ると、農業への関心が薄く、将来の就職先として考えている生徒が極端に少ない印象を受ける。本校としては、将来、農業者となり生活していく上で必要な知識や技術などの実践力を養う場であることを丁寧に説明し、さらに、次年度から供用開始が予定される新施設や、新しいカリキュラムのもと充実した環境で学習できることを積極的に発信し、学生募集につなげていく必要がある。
		(2)　地域に開かれた大学校	教務管理	① オープンキャンパスの開催 開催にあたっては、充実した体験内容となるよう工夫、改善を図る。また、６月中旬頃に開催案内を送付し、早期の周知に努める。 〔開催数・参加者数〕3回・90名以上 〔過去実績〕 〇令和５年度 3回 78名（入校者41名） 〇令和４年度 3回 74名（入校者59名） 〇令和３年度 3回 57名（入校者45名）	・予定通り3回実施することができた。 7/21（日）101名参加 7/26（金） 38名参加 8/ 3（土） 58名参加 参加者合計197名（生徒90名、同伴者107名）と前年度より増加した。新施設への興味関心が高いことも理由として考えられる。参加者のアンケート結果も8割以上が好意的な印象であった。	B	参加した生徒の内訳は、3年生59名、2年生27名、1年生4名であった。3年生のみならず低学年の参加が半数以上と盛況であった。県外からの参加者も多数見られ、本校への関心の高さを感じた。課題としては、酷暑の中での開催となるので、その対策（飲料、温度管理等）を講じる必要がある。また、次年度は、新施設や新寮の見学を実施できるので、充実した内容としたい。
			教務管理 各経営学科	② 学校説明、学校見学等の随時対応 学校見学や各種団体による研修の場を提供するなど、要望に応じて積極的に受入をする。 〔過去実績〕 〇R5年度：農業の現状に関する講義を開講 （SSH安積高1年生30名程度） 〇R5年度：入校説明会個別対応 （生徒3名、保護者4名） 〇R5年度：学校見学会（白実高30名程度） 〇フレッシュ農業ガイド 〇ＧＡＰ視察 〇岩瀬農業高校PTA研修	学校見学の個別対応を行った。本年度は9件対応した。 〇フレッシュ農業ガイド講座（修明高校40名：9/9） 〇郡山萌世高校インターンシップ（生徒5名参加：10/3,4） 〇独立行政法人国際協力機構（JICA）研修受入（JICA研修生6名：11/6） 〇矢吹町立三神小学校施設見学（児童20名、引率2名：2/26）	B	本校の活動や教育内容を広く理解してもらうには積極的な受け入れが必要である。定時制高校からのインターンシップや小学校からの見学の問合せもあるので、今後も継続した取り組みとして実施したい。
			研修部 各経営学科	③ 矢吹町との連携 体験農園や研修などを受け入れ、本校教育内容について地域住民の理解を深める取組みを行う。 〔取組内容〕 〇ＪＡ東西しらかわとの連携 〇町民体験農園の受入 〇公開講座の実施（卒業記念講演・家庭菜園・趣味の草花） 〇町イベント・農産物直売への出展 〇町広報紙への学生生活紹介記事掲載 〇幼稚園、小学生農業体験の受入 〇矢吹経営懇話会との連携	・矢吹町フロンティア農園開催（8月～10月）計6回　93名 ・公開講座 ・家庭菜園、趣味の草花については、令和6年2月2日開催。 ・中島村立中島幼稚園、認定こども園ポプラの木の農業体験（サツマイモ栽培）を受け入れた。秋に収穫体験を実施する予定である。また、果樹園見学も受け入れた。	B	本校のある矢吹町との連携は重要である。今年度の活動以外に、矢吹町の各種イベントへの参加や小学校との連携など、本校を知ってもらう活動を検討していく必要がある。次年度は、三神小学校より体験学習の依頼が来ているので計画したい。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
		(3) 機会を捉えた学校情報の発信	広報委員会 教務管理	① 学校ＨＰ等による情報発信 ＨＰ等により教育活動の状況を積極的に情報を発信し、入校希望者の進路選択の一助となるよう、定期的（月２回以上）な更新と内容（行事や講義等の様子など）の充実に努める。 〔ＨＰ更新件数〕30回以上 〔過去実績〕 令和５年度　25回 令和４年度　32回 令和３年度　23回	・月2回の更新を目標に、本校の行事や学生の活動の様子を中心に情報発信を行った。今年度は21回の更新となり目標には届かなかった。諸事情もあり更新が滞ってしまった。次年度改善したい。。 ・非公式であるが、学生目線で行うインスタグラムによる情報発信を行っており、こちらも130回の更新になる見込みである。	B	学校ＨＰは、学校独自に作成できるＨＰではないので、どの程度ＨＰを閲覧しているかわからない面がある。保護者のアンケートでは、8割以上がＨＰを閲覧しているのと回答もあり、また、学校生活について知りたい保護者も多数いる。今年度の反省から次年度は更新頻度を月２回を目標に実施したい。
			広報委員会 教務管理	② 広報資料の作成 学校要覧、学校案内資料の内容の充実に努め、魅力ある広報資料の作成にあたる。 ・学校案内チラシ ・学校案内ポスター ・学校要覧　1,000部作成 ・ＰＲパンフレット作成 ・新施設ＰＲチラシの作成	・広報資料を作成し、学校訪問や進路ガイダンス、オープンキャンパス、各種説明会に持参し配布した。 ・新施設のＰＲチラシについては、農業担い手課が中心となり作成した。本校では、学校ＨＰに新施設関連の情報を更新した。	B	年度後半になると学校要覧が足りなくなるので、広報資料の作成内容の精査が必要になっている。学校要覧については、新施設の内容を充実させたものとしたい。入試要項の補助資料としてチラシを作成しているが、その利用方法について再考したい。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ　質の高い実践的教育の提供と学習環境の充実	【視点１】 　農業を取り巻く環境は時代の進展とともに急速に変化し、また、学生の農業に対する意識や捉え方、農業分野における進路選択の幅も多岐にわたり、多様化が進んでいる。 　しかし、農業の担い手として身に付けさせるべき基礎・基本は着実に習得させるとともに、各農業分野における諸課題に即戦力として対応できるよう質の高い先進的な教育を実践していく必要がある。 　そのためには、指導に当たる教職員の指導力の向上はもちろん、施設・設備を含む教育環境の充実に取り組むことも重要である。	(1) 教育内容の充実	教育計画検討委員会	① 次年度に向けた新カリキュラムを完成させる 社会の要請や学生の実態に応じた、教育内容の弾力的な改善を図る。 〔目　標〕 〇すべての科目について、履修学年、開講時期、担当講師等を見直し、教育の改善・充実を図り、カリキュラムを完成させる。	・新カリキュラム編成に向け、委員会を開催した。新カリキュラム案について、前年度引き継いだ内容を基に作成した。今後、シラバス等変更があった部分を更新して完成させたい。	B	次年度は、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する状況になるので、教育計画を丁寧に作成したい。シラバスについては、新カリキュラムの実施状況を確認しながら内容について詰めていき、シラバスに反映させたい。
			教育計画検討委員会	② 学校アンケートに基づいた講義内容の改善 講義演習、実験、実習への理解度、満足度をアンケートにより把握し内容の改善に努める。	・学生、職員を対象に2回（前期、後期）学校評価アンケートを実施した。保護者に関して後期に1回の実施となる。学生の学校への評価は8割以上が良好であった。	B	学生、保護者からのアンケート結果をもとに、反省点があれば改善し、より学生の満足度を高めるよう努力したい。そのためには、アンケートも精査し、学生のニーズ等的確に捉える内容としたい。
		(2) 各種免許、資格取得の推進	資格対策委員会	① 合格率向上を目指した資格指導の実施 指導内容の充実に努めるとともに、学生の知識・技術の定着状況に応じて、補講等の支援を随時実施する。また、農業の担い手として有用な資格を検討し受験につなげる。 〔目標合格率〕※( )は前年度 〇大型特殊免許取得率　：　95%（94.1%） 〇けん引免許取得率　：　95%（92.9%） 〇毒物劇物取扱者　：　30%（16.7%） 〇簿記取得率　：　40%（27.3%） 〇人工授精師免許　：100%（100%）	・大型特殊免許取得率：97.5%(39名/40名) ・刈払い機衛生講習：37名 ・けん引免許取得率：92.1%(36名/39名) ・毒物劇物取扱者：3.2%(1名/31名) ・日本商工会議所主催簿記検定3級：18.2% 　※不合格者に対し、資格取得に向けて補講(1/8～)を実施した。 ・農業簿記検定3級：57.1%(4名/7名) ・農業簿記検定2級：33.3%(1名/3名) ・日本農業技術検定2級：10.0名/20名) ・日本農業技術検定3級：66.7%(12名/18名) ・人工授精師免許：100%（8名/8名）	B	資格の難易度により合格率に差がでてしまう。学生には、資格取得への意識付けや取り組みの方法を細かく指導する必要がある。今後は、学生自らが計画して資格取得に取り組めるよう指導する他、放課後時間にいつでも勉強ができる環境を整えたい。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ　質の高い実践的教育の提供と学習環境の充実	【視点２】 　農業高校出身の学生は毎年一定程度入校しているが、近年は他校種、また、非農家出身の学生が多く、入学時の農業に関する知識や技術に大きな格差が見られるのが実情である。 　このため、１学年では早期の段階から学生個々の能力に応じた指導により、農業の基礎・基本の着実な定着を図る必要がある。さらに、２学年においてはより高度な教育を展開し、専門的な知識と技術を習得させ、農業における課題解決能力や実践力を身に付けさせる必要がある。	(3) 学生の主体的な取組によるＧＡＰ等の定着	ＧＡＰ推進運営委員会	① ＧＡＰを実践できる人材育成 〔ＧＡＰ学習〕８回 〇基礎講座:2回 〇実践学習:2回 〇演習（リスク評価）:2回 〇模擬審査:1回 〇研修会の開催:1回 〇ＧＡＰ審査の受検 〔ＧＡＰ活動〕 〇学生のＪＧＡＰ指導員資格取得 〇三重農業大学校ＧＡＰ交流	・「GAP概論」を以下の内容で実施した。 ・GAPの概要として、GAPの基本理念、県内におけるGAPの推進状況を学習した。 ・外部講師による実践的な講義及び演習を行った。 ・本校におけるGAP認証を取得している水田経営学科、野菜経営学科、果樹経営学科の農場においてGAP実施状況を学習した。 ・JGAP維持審査受験(11月)に学生が同席し審査を学習した。 ・JGAP指導員資格取得5名（2年生1名、1年生4名） ・三重農業大学校の都合により交流は実施しなかった。	A	講座の内容は本年度同様で良いと考えるが、学生の興味を引き出すような事例等を盛り込む。
				② 農場運営を通したＧＡＰの実践 〇定期的な農場評価の実施 〇自己点検と見直しの実施：1回/年以上 〇学生による帳票類の記帳	・JGAP審査前の模擬審査を実施(10月)。これに先立ち農場評価、自己点検及び見直しを実施した。 ・JGAP認証維持審査を受験し、不適合項目を改善した(11月)。 ・JGAP登録の維持が認証された(12月)。	A	・JGAP更新審査、FGAP更新審査の年に当たる。自己点検、見直しを適切に実施する。
		(4) スマート農業の推進	ｽﾏｰﾄ農業推進委員会	① 講義や実習の導入 〇ICTの基本及スマート農業に関する講座実習:1回 〇先進地事例調査及び研修:1回 〇分娩監視システムの活用による分娩管理実習:9回 〇スマートアシストの実践	〇講座名「スマート農業実践」を以下の内容で実施した。 １ スマート農業の基礎知識、導入事例、環境保全型農業での活用事例などについて講義を通じて学んだ。講義3回（本校職員×1、福島大学教員×2） ２ 農業機械メーカーの指導によるスマート農機の操作演習を行った。 ・分娩監視システムの活用による分娩管理実習 　畜産経営学科において、分娩監視システムの活用による分娩管理実習を6回実施した。また、カメラによる監視や超音波診断装置を使用した妊娠確認を適宜実施した。	B	・講座の開講時期や内容等を見直し、教育の改善・充実を図る。 ・外部講師によるスマート農業の研修（講義、実演）を継続して実施し、技術を習得させる必要がある。
				② 研修による技術習得 技術習得のため、外部講師等を積極的に活用しながら研修会を開催する。 〔実　績〕 〇外部講師による研修会実施 〇施設利用による研修会の受入 〇職員研修の実施	・技術習得のため、１２月にスマート農業研修を２回実施し、農業用ドローンを初めとするスマート農業機械の基本知識と基本操作を学ぶ研修を開催した。	B	・スマート農業の研修を継続して開催し、スマート農業技術の習得を推進していく必要がある。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ　質の高い実践的教育の提供と学習環境の充実	【視点３】 学校や寮生活等の集団生活の中で培われる規範意識は、卒業後の社会生活において重要となる。これは、同じ志を持つ仲間とのつながりを大切にする心の教育であり、社会生活の中で他者と協調する力にもなる。 農業経営力の育成には、知識や経験も必要であるが、その他に社会の一員として必要なコミュニケーション力も重要である。販売実習や卒業論文の作成、発表等、様々人達との交流や他者の意見や考えに触れ、それを尊重することが個人の資質を高める活動となる。 農業経営力の養成には、良い農業人（産業人）の育成という共通理解のもと、適切に学生指導にあたり、学生にとって望ましい成長を支援していく必要がある。	(5) 農業経営力の育成	直売実習 実施委員会 各経営学科	① 販売実習によるコミュニケーション力の養成 農業経営者（社会人）として必要とされる能力（社会性・指導性）を養成する。 〔目　標〕 ○品目別販売計画の作成 ○農産物直売施設（ｱｸﾞﾘﾊｳｽ万菜）の有効活用 ○「直売実習」開催：年６回 ○関係機関が企画するイベント等への出展 ○矢吹マルシェ他、近隣町村に所在する施設における販売実習の実践	・直売実習をアグリハウス万菜を会場に、本年度６回（6/14,7/18,8/9,9/18,10/31,11/22）実施した。 ・各回毎に実行委員会を開催して、販売計画や年間テーマ、PRチラシの作成を行った。 ・各回とも実行委員の下、学生が主体的に動く体制をとり、大きな問題も無く実施できた。学生による接客や駐車場からの誘導など回数を経ることにスムーズとなり、コミュニケーション能力や社会性・指導性が養成されたことが伺えた。 ・売上実績1,592,500円(前年比135%) ・9/6センターまつりへ出展し、学校PRも併せて農産物直売を実施した。 ・9/29第2回おもてごうマルシェへの参加。 ・欅隆祭での直売実施。売上1,171,750円(前年比144%) ・11/29本校初の牛肉販売実習を実施した。	A	・運営の主体となる2学年は、来年度は今年度より13名少ない42名となる。そのため、学科によっては1,2学年合同で実施する等、運営方法の検討が必要である。 ・顧客満足度を高めながら、売上高の向上を図るためのツールや手法を引き続き学生に考えさせて実践を促す。 ・直売施設に隣接して新施設(人材育成センター)がオープンするので、販売ブースのレイアウトなど有効に活用する。
				② 経営研修等の開催 ○先進地農家留学研修（1学年） ○優れた個別経営体及び農業法人等経営視察研修 ○経営シミュレーションの実践（卒業論文）	・先進農家等留学研修 1学年生42名を前期・後期の２班に分けて実施。前期研修・後期研修ともに計画どおり実施した(前期：受入25戸31名、後期：受入9戸11名)。 ・優れた個別経営体及び農業法人等経営視察研修 水田経営学科　県内４回、県外４回 野菜経営学科　県内２回、県外２回 果樹経営学科　県内１回、県外２回 花き経営学科　県内１回、県外１回 畜産経営学科　県内14回、県外１回	B	各学科の計画により研修を実施しているが、急な計画もあるので、研修内容を吟味し、余裕を持った計画を策定する。
		(6) 教職員の指導力の向上	教務管理 各経営学科 研修部	① <u>指導力向上に関する研修機会の確保</u> <u>〔実施回数〕年２回</u> ○指導力向上に関する研修会の実施及び参加 ・関係する学校への見学等 ○発達障害に関する勉強会の開催 ・校内外からの専門家による勉強会への参加	・指導力向上に関する研修会の実施及び参加 ・発達障害に関する研修会（6/21） ・簿記授業（光南高校）見学（9/26） ・西郷支援学校による特性が疑われる学生の指導に対する個別相談（10/17 学生2名）	B	今後も指導力向上のための研修を企画したいが、題材となるものを募集し実施したいと考えている。
				② <u>高校教育に関する実態把握</u> 公開授業、学習活動等の発表会へ参加し、高校教育の実態を把握するとともに、大学校での学習指導に活かす。 ○公開授業への参加 ○課題研究発表会への参加	・農業高校関連の学習活動に参加した。 ・意見研究発表会大会総合審査委員・審査員（校長、教務） ・福島県農業高等学校同窓連盟総会参加（校長、教務） ・福島県高等学校長協会農業部会総会並びに研究協議会参加（校長、教務）	B	本校と農業高校の課題研究発表会等、相互交流ができるよう計画したい。また、学生には、卒業論文の参考や発表方法、プレゼンの仕方など活動の刺激になる部分が多くあるのではないか。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	経過・達成状況	評価	#REF!
Ⅱ 質の高い実践的教育の提供と学習環境の充実		(7) 地元大学等との連携推進	教務管理 各経営学科	① 福島大学食農学類との連携 福島県と食農学類との協定を踏まえ、相互の支援、交流等による連携を推進する。 〇大学教員による講義 〇卒業論文発表会での指導・講評 〇大学校運営会議で学校運営に係わる助言 〇学生の実習等の受入による支援 〇学生間の交流	・卒業論文発表会での指導・講評方法の改善等について福島大学と打ち合わせを行った。発表会の内容を充実させるため、R6年度から福島大学教職員を審査委員長として運営することとした。卒業論文発表会は12月12日に開催し、福島大学深山教授には審査だけでなく、試験データの蓄積についても助言を頂いた。	B	卒業論文発表会の審査のみならず、設計段階から助言を頂くことができればと考えるが、現段階では難しいと感じる。次年度は、センター本部や各農林普及所からの助言を受ける取組みが始まる。
		(8) 学生指導の改善	学生指導委員会	① 学生指導における共通理解と指導 〇定期的な学生指導委員会の開催 〇学生指導に関する情報共有 〇給食委員会の開催	・交通関係（自損事故等）7件 ・給食アンケートを実施した。	B	交通関係の事故が毎年起きているので、注意喚起を継続して行いたい。給食アンケートでは、概ね満足しているようだが、改善して欲しいというメニューもあった。寮生活については大きな事故はなかったが、門限を守らない学生が複数いたのでルールを徹底させたい。
				② 学生寮における生活指導と生活環境の改善 〇学生寮の巡回 〇学生寮の改善 〇自治会、寮自治会との意見交換の実施 〇新寮の使用方法等の検討	・学生寮の巡回指導を開始した。寮のルールを逸脱する行動が見られるので、その都度指導した。 ・寮生（深夜徘徊）1件 ・自治会、寮自治会の総会を開き、学生からの意見を募るがなかなか意見がでない傾向にある。 ・役員改選においては、積極的に行う学生がいる。	B	寮の共通区である談話室や洗面所など清掃が行き届かない部分があった。生活指導を含め寮のルールを指導徹底したい。 新寮に向けては、寮の形態が変わるので、既存のルールを基に新寮に合わせたルール作りを行っていきたい。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）

令和6年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校評価表

重点目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅲ　本県農業の復興を支える多様な担い手の育成	【視点１】 経営基盤が十分な農家出身の学生が少なく、基盤が弱小な兼業農家や非農家出身の学生が多いことから、例年、自家への就農率は低い傾向にある。 このため、法人等への就農を目指す学生を増加させるため、機会をとらえて情報提供するとともに、関係機関と連携の下、学生の就農意欲の高揚を図り、教育目標である「実践的な技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成する」の達成を目指す。 また、農業関連産業を含む企業等への就業を目指す学生の指導は、進路指導委員会を中心に、その他教務職員と連動した指導体制を構築し、学生の進路実現を目指す必要がある。	(1)　本県農業の復興を担う新規就農者の育成と進路指導の強化	進路対策委員会	① 農林事務所や農業会議等との連携による適切な就農情報の提供と進路指導対策の強化 〔目標指数〕 〇進路確定率：100% 〇就農者率　：45% 〇進路希望調査（1学年）：1回 〇進路に関する個別面談の実施：3回 〃　　三者面談の実施：2回 〇合同企業説明会等への参加：延べ190人 〇模擬面接指導等：延べ240回	・就農サポート支援員との連携の下、農林事務所等と情報を共有しながら、農業法人等への就農の意識付けを行った。 ・進路確定率：96%　　※R7.3.31現在 ・就農者率　：55% ・進路希望調査（1学年）：１回（8月） ・個別面談：3回 ・三者面談：2回 ・合同企業説明会への参加　延べ34人 ・模擬面接指導　延べ210回 ・8/28、12/4　就農予定学生の円滑な就農を支援するため、就農支援担当者（普及部・所及び各方部別就農コーディネーター）との懇談会を実施。延べ55名参加。 ・9/9　相双地域の就農を促すための相双地域農業法人等視察相談会に1学年が参加。 ・10/2　JA夢みなみ主催の新規就農喚起を目的とした新・農業人交流会に1学年20名が参加。 ・11/20　学生向けのふくしま農業人フェアに1学年が参加。	B	・進路確定率100%、就農率向上を目指し、就農サポート支援員との連携の下、学生と農業法人等とのマッチング活動を強化していく。 ・就農受入可能な農業法人の掘り起こしと就業環境の向上に向けた活動を強化していく。
		(2)　農業関連産業に関する情報収集の強化	進路対策委員会	① 農業関連産業を含む企業等情報の収集と学生の就職活動の意欲の高揚 〇インターンシップ参加：延べ50人 〇企業情報等の収集と提供：延べ50回	・企業等からの求人の収集を行うとともに、2学年に対し求人提供を適宜行った。 ・インターンシップ参加：延べ29人 ・企業情報等の収集と提供：延84回	B	・インターンシップ参加誘導及び情報提供 ・企業情報の収集と提供を継続して実施
		(3)　ハローワーク等、就活支援専門家集団との連携強化	進路対策委員会	① １学年次からのきめ細やかな社会教育と進路指導による学生の就業意識の定着 〇専門家集団による講座の実施：11回	・ハローワーク、キャリア支援機構、ふくしま生活・就職応援センターとの連携により、学生の状況に応じた個別対応を実施した。 ・7/22　ハローワーク白河より2学年へ就職にむけた授業を実施した。 ・11～12月　１学年の就職希望者の中で早期に支援が必要と判断した学生（11名）に対し、ふくしま生活・就職応援センター職員と個別面談を行った。 ・11/27　1学年の就職希望者に対し、キャリア支援機構の支援により校内ミニ版企業説明会を実施した。 〇専門家集団による講座の実施：11回	B	・専門家集団の連携を継続強化し、さらに充実した内容の講座運営により、学生の就業意欲の向上を目指す。 ・ハローワーク、キャリア支援機構、ふくしま生活・就職応援センターとの連携により、学生の状況に応じた個別対応を実施していく。

＜評価基準＞A：十分達成できた（80～100%）B：おおむね達成できた（60～79%）C：あまり達成できなかった（40～59%）D：ほとんど達成できなかった（0～39%）